

モニタリング結果報告書

施設 神奈川県立神奈川近代文学館

指定管理者 (財) 神奈川文学振興会

施設所管課 県民部文化課

(平成21年度 上半期)

管理運営状況総括

1 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	備考(確認事項等)
4月	5月8日	5月18日	改善すべき業務等なし
5月	6月9日	6月25日	改善すべき業務等なし
6月	7月8日	7月14日	改善すべき業務等なし
7月	8月7日	8月17日	改善すべき業務等なし
8月	9月8日	9月11日	改善すべき業務等なし
9月	10月9日	10月15日	改善すべき業務等なし

2 指定管理者の選定理由にある取組み等の実施状況

(1) 提案内容の達成度

A: 提案を上回る B: 提案どおり C: 提案を下回る

(2) 実施状況等

指定管理者の選定に際して、サービスの向上や利用促進の観点から提案された各取組み等について、提案内容の要旨とそれに対応する形で実績を記載する。

<提案内容の概要>

人的財産とネットワークに基づく卓越した資料収集能力等を生かして幅広い事業を提案

提案内容の概要

①より多くの来館者を獲得するために、様々なニーズに応じた展示を企画、開催する。

(集客をめざす展示、独創性のある展示、外に広がる展示など)

②インターネットによる所蔵資料情報の公開を進める。

③専門館として文学のレファレンスにきめ細かく対応する。

④館所蔵、新収蔵資料を柱に構成した展覧会も積極的に開催する。

<実施状況>

①・④ 3月～4月 企画展^{※1}「子規から虚子へ展」(新収蔵資料展(2008年度)を同時開催)
(21年度)入場者数3,936名(前年度2,601名との合計6,537名)

4月～6月 特別展^{※2}「森鷗外展ー近代の扉をひらく」を実施 入場者数8,220名

6月～8月 企画展「中島敦展ーツシタラの夢ー」を実施 入場者数5,060名

8月～9月 企画展「茂田井武展ー子どもたちへの贈りもの」を実施

入場者数 4,118名

② 近代文学館のホームページで実施

蔵書アクセス件数 18,708件

③ レファレンス^{※3}対応

83件

※1 企画展: 常設展「文学の森へ」と同時開催する展覧会で、展覧会ごとに新たな企画として開催する中規模の展覧会。展覧会区分としては特別展に属する。

※2 特別展: 毎年2つの展示室で開催する大規模な展覧会。年2回(春と秋)開催。

※3 レファレンス: 文学に関する情報ないし資料等の各種問い合わせに対し、仲介的な立場から援助するサービス。利用案内、資料提供なども含む。専門的な質問も数多く、公共図書館等他施設からの照会もある。

3 収支状況（単位：千円）注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しません。

	収 入 額			支出額	収支差額
	指定管理料	利用料金 (前年同月料 金額)	その他収入		
年間予算額	417,624	405,287	6,274	417,624	0
上半期計 (a)	189,071	179,984	4,914 (6,344)	183,413	5,658
下半期計 (b)					
4月	20,503	18,755	739 (395)	20,099	404
5月	32,629	30,093	1,278 (2,089)	27,395	5,234
6月	50,883	49,473	729 (1,186)	52,906	△2,023
7月	30,134	28,914	799 (339)	32,814	△2,680
8月	28,366	27,323	639 (1,045)	27,315	1,051
9月	26,553	25,426	727 (1,291)	22,884	3,669
合計 (a+b)	189,071	179,984	4,914 (6,344)	183,413	5,658

- 1 指定管理者の収入を記載する（県の収入である「使用料」は含まない）。
 2 「その他収入」は、都市公園の駐車場収入、雑収入、寄付金収入など指定管理料と利用料金以外のすべての収入を記載する。

収支状況に関する意見等

・半期計欄の収支差額が、収入額又は支出額のうち低い方の額の1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。

・また、収支差額に1割以上プラスが生じた主な理由が、人件費の削減である場合は、年度協定における人員配置計画と比較し、合理性が認められるか否かを記載する。

・年間予算額の収支が均衡していない場合は、その理由を記載する。

・前期に比較して利用料金収入が少ないのは、4～6月の「森鷗外展」で入館料免除の高齢者の比率が高かったことが主因と考えられる。

・各月の収支差額にプラスとマイナスが発生している主因は、資料輸送費、パネル制作費等、4～6月開催の展覧会開催経費の精算手続きの相手先の遅滞（履行後の精算、請求書の未達等）によるものである。

（今期に行った資本的な収入及び支出等の状況）

	内容	金額(千円)
収入の状況	なし	
支出の状況	なし	
積立等の状況	なし	(期首)
		(期末)

収入の状況：定期預金の取り崩し、借入れによる収入があった場合等は、その旨を必ず記載する。

支出の状況：車両の購入、施設の増改築、また定期預金の積み立てを支出に含めた場合等は、その内容を必ず記載する。

積立等の状況：積立・借入れ等がある場合は、その内容（施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等）、当該期首及び期末の金額を必ず記載する。

4 利用状況

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計 (a)	35,437 人	30,887 人	14.7%
下半期計 (b)	人	人	%
4月	6,968 人	2,544 人	173.9%
5月	8,095 人	7,718 人	4.9%
6月	5,451 人	4,788 人	13.8%
7月	5,892 人	3,128 人	88.4%
8月	4,052 人	5,758 人	△29.6%
9月	4,979 人	6,951 人	△28.4%
合計 (a+b)	35,437 人	30,887 人	14.7%

利用状況に関する意見等

〔 半期計欄の前年対比増減率が、1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。 〕

総入場者数の対前年比+14.7%について：4月については高濱虚子展が講演会等関連イベント開催の効果もあったことから、また6、7月については中島敦展が県にゆかりの深い作家であり知名度も高いことから、多くの利用者を得られたと考えられる。なお、8、9月の児童文学展において昨年度ほど集客できなかったのは、新型インフルエンザ流行に伴う外出自粛の影響も原因として考えられる。

5 苦情・要望等の状況

(施設受付分)

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
4月						0
5月						0
6月						0
7月						0
8月						0
9月						0

(施設所管課受付分)

報告月	口頭	文書	合計
4月			0
5月			0
6月			0
7月			0
8月	1		1
9月			0

6 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況 *対応不可等の特筆すべき苦情等なし

〔 類似の苦情や要望が多く寄せられたもの、苦情や要望をもとに対応した取組みが利用者へ評価されたもの、苦情や要望のうち対応したいと考えるが、諸般の事情により対応できないものなどを記載する。 〕

分野	概要	対応状況
施設・設備	・	
	・	
職員対応	・	
	・	
事業内容	・	
	・	
その他	・	
	・	

7 事故や不祥事等の発生状況

利用者や職員が死傷した場合、業務の実施において法令違反等による指導や処分を受けた場合及び個人情報や公金の管理等において不適切な取扱い等があった場合は、その概要と対応状況を記載する。なお、利用者の死亡事故や個人情報の流出等、重大な事故や不祥事が発生した場合は、行政システム改革推進課に任意の様式により速やかに報告書を提出する。

* 該当なし

発生日	概要・対応状況等
月 日	
月 日	
月 日	

8 随時モニタリングの実施状況

事故や不祥事の発生等に伴い、施設所管課が随時モニタリングを実施した場合は、調査内容や結果を記載する。

* 該当なし

実施日	対応者等	経緯・調査内容	調査結果
月 日			
月 日			

9 上半期の所見等

1～8の各項目の状況等を踏まえ、指定管理業務をより効果的・効率的に推進する観点から、反省点や改善策等を記載する。

指定管理者

特別展：森鷗外展は、高齢者のほか学生のグループ観覧も多く八千人を超える入場者を得、相応の成果を上げたと考えている。
企画展：子規から虚子へ展は計六千人を越す入場者で3、4月期としては異例の盛況となった。関連イベントの参加者数も多く今後の有意義な事例となった。茂田井武展は横浜市内全小中学生へのチラシ配布が効果を上げず、作家に応じた広報ターゲット絞り直しの新たな課題を提示した。

施設所管課

展覧会については、知名度の高い作家を取り上げるとともに関連イベントの企画などにより、総入場者数が対前年比+14.7%となり来館者増の成果を上げている。
館の運営管理については、館への直接の苦情が平成20年度上半期は4件、下半期は3件であったのが今期はゼロであるなど、おおむね良好になされている。
引き続き、館の維持管理とともに、展覧会開催、蔵書管理など文学振興策を実施することが期待される。